

摂食嚥下障害の評価

食べているところを観察する

その人の状態に適した食べ物を食べてもらうには、摂食嚥下機能を客観的に把握することが不可欠です。

まず、ふだんの食事の様子をじっくりと観察してください。

- 食べ物をしっかり認知しているか
- 食べ物をしっかり飲み込んでいるか
- 飲み込む動作は一度で済んでいるか
- 飲み込む前に、口の中に食べ物を詰め込んでいないか
- 口の中に入れすぎてこぼしていないか
- 上手に口全体を使って咀嚼しているか

触れてみる

食事の時以外に調べる方法で最も簡便なのは、飲み込む時の喉仏の動きを指で確認して、嚥下がきちんとできているかを調べるやり方です。

(喉頭挙上聴診)



-のどに触れてチェック-

聴いてみる

聴診器を使うとごっくんと飲み込む音が聞き取れ、さらにその前後の呼吸音も調べられます(頸部聴診) 正常な嚥下音は「コ・ク」という澄んだ二つの音です。次のような音がしたら、嚥下がうまくいっていない証拠です。

- 飲み込む時に、ごぼごぼと液体が泡立つような音や、むせているような音がする
- 飲み込む音が1度だけでなく、2度、3度と続く
- 飲み込んだ後、液体が振動するような音やひゅーひゅーという音、湿ったような音が聞こえる



-聴診器でチェック-

内視鏡やレントゲンで調べる

嚥下機能をさらに詳しく調べる方法として、ビデオ内視鏡検査(VE検査)と嚥下ビデオレントゲン検査(VF検査)があります。

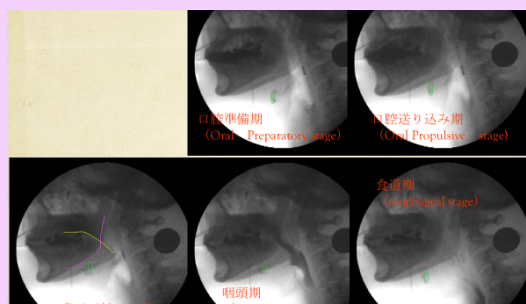
VE検査とは、鼻から内視鏡を入れ、食べている状態を見る検査です。

喉の様子が直接モニターに映し出され、家族の方も一緒に見ることが出来ます。訪問診療でも実施できます。



-VE検査-

VF検査とは、造影剤入りのゼリーなどを食べてもらい、嚥下の様子をレントゲンで動画撮影します。



-VF検査-

いずれも専門家で行えない検査ですが、嚥下障害の有無や程度を知っておくために、一度は調べてもらうといいと思います。かかりつけの医師や歯科医師へご相談ください。